



c 終了直前の状態

d 終了後の状態。  
眼輪筋やその表面を  
走行する小血管など  
が温存され、出血量  
も少ない。

\*村上正洋：退行性上眼瞼皮膚弛緩症に対する眉毛下皮膚  
切除術. PEPARS. 51 : 52-61, 2011. より引用

ついで、最小限の皮下剥離を行い、ellmanバイ  
ポーラを用いて丁寧に止血した後に眼輪筋・眼  
窩隔膜のタッキング、真皮縫合、表層縫合の順  
で3層に閉創する。



a: 術前の状態



b: デザイン (最大切除幅 10mm)



c: 術後6ヶ月の状態

\*村上正洋：年々まぶたが重くなる。－アトラス－形成外科  
手術手技. 百東比古編. 180-184, 中外医学社,  
2011. より引用

術後は2日間程度の創部のクーリングを行い、  
1週間後に抜糸する。

## 参考文献

- 1) 村上正洋：年々まぶたが重くなる。  
－アトラス－形成外科手術手技. 百東比古編.  
180-184, 中外医学社, 2011.
- 2) 村上正洋：眉毛下皮膚切除. 新 Eye Surgery  
Now. 9 : 59-63, 2012.
- 3) 村上正洋：眼瞼の形成外科手術における局所  
麻酔のコツ. PEPARS. 72 : 1-8, 2012.
- 4) 村上正洋：退行性上眼瞼皮膚弛緩症に対する  
眉毛下皮膚切除術. PEPARS. 51 : 52-61,  
2011.
- 5) 村上正洋：眉毛下皮膚切除術. 眼手術学  
2 眼瞼. 野田実香編. 330 - 339, 文光堂,  
2013.

## 【筆者略歴】

- 1989年 日本医科大学 卒業、同大学皮膚科学  
教室形成外科 入局
- 1991年 日本医科大学附属第二病院外科・  
麻酔科 助手
- 1993年 総合会津中央病院皮膚科 医長
- 1994年 日本医科大学附属病院形成外科 助手
- 1995年 オーストラリア、ロイヤルアデレード  
病院・小児病院クラニオフェイシャル  
ユニット 留学
- 1996年 日本医科大学附属病院高度救命救急  
センター 助手
- 1997年 大浜第一病院皮膚科形成外科 医長
- 2000年 日本医科大学附属病院形成外科・美容  
外科 医局長
- 2003年 日本医科大学形成外科学 講師
- 2005年 同、准教授、日本医科大学武蔵小杉  
病院形成外科 部長
- 2010年 日本医科大学武蔵小杉病院  
形成外科 教授